

【報道関係各位】

2009年6月23日
Japan Partners Against Pain®

**第2回「JPAP®オレンジサークルアワード 2009」
がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケアチームが
最優秀賞を受賞！
～緩和ケアチームの優れた活動を評価～**

正しい痛み治療の普及と理解の浸透を目指し、医療従事者が設立した非営利の任意団体JPAP® (Japan Partners Against Pain® 代表世話人：JR東京総合病院 院長 花岡 一雄)*¹は、6月18日(木)に第2回「JPAP®オレンジサークルアワード 2009」の最優秀賞、優秀賞、特別賞を発表しましたことをお知らせいたします。

「オレンジサークル※²」とは、“がんの痛みを取り除くことで、患者さんが、がんそのものと取り組む気力や体力を得る”という考え方を実践する医療チームの活動をサポートするJPAP®の取り組みで、医療チームからの登録申し込みに基づきJPAP®が認定します。その活動の一環として、緩和ケア活動の院内・院外での認知度をさらに高め、よりよい治療の普及と発展に寄与するべく、昨年引き続き第2回「JPAP®オレンジサークルアワード 2009」を実施いたしました。

【最優秀賞】

最優秀賞は、がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケアチームに贈られました。同病院では2007年4月に自主的な緩和ケアチームの活動を開始し、2008年4月からは緩和ケア科を設置。専従の緩和ケア科の医師、がん性疼痛認定看護師、専任の神経科医師やがん薬物療法認定薬剤師などのコアメンバーに加え、癌治療医や心理士などのサブメンバー17名が緩和ケアチーム(PCT)活動を行っています。教育・啓発活動にも力を入れており、院外からも参加者を募り緩和ケア勉強会を毎月開催しているほか、「疼痛外来」や「痛みの日記帳」の配布などを通じて患者さん向けの普及活動も行っています。同病院が行った緩和ケアチームの活動のアンケートで、病棟担当の全看護師の81%、同医師の85%がPCT活動に関わった経験があると回答しているように、診療科の垣根を越えた連携・協力で緩和ケア活動に取り組む姿勢が高く評価され、今回の受賞となりました。

—がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケアチームのコメント—

「専従チームとして1年目ではありますが、このような名誉ある賞をいただき、チーム一同光栄に思っております。まだまだ課題は抱えておりますが、『美女軍団チーム』として笑顔を絶やさずに、患者さんの笑顔を支えるチーム医療を提供していきたいと思っております。」



【優秀賞】

優秀賞は、慶應義塾大学病院 緩和ケアチームに贈られました。同病院では 1997 年に多職種チームである「疼痛ケアチーム」として活動を開始し、2007 年に「緩和ケアチーム」として正式に承認されました。同チームの活動の最大の特徴は、主治医による病状説明の際に、主治医・看護師・緩和ケアチームのメンバーで事前にショートミーティングを行い、実際の病状説明の場においても緩和ケアチームが立ち会い、患者さんとの医療従事者間のミスコミュニケーションを防ぐという点にあります。このように、「疼痛ケアチーム」時代から培ってきた専門的知識や院内連携を基礎に、「顔の見えるチーム」を目指して積極的な活動を行っている点が高く評価されました。

—慶應義塾大学病院 緩和ケアチームのコメント—

「今回思いがけず賞をいただくことになり、メンバー一同大変喜んでおります。私たちのチームは患者さんやご家族、医療者に『顔の見える緩和ケアチーム』『信頼にこたえるチーム』をめざして活動を行っております。まだまだ発展途上のチームですが、院内のみならず地域の方々への普及をめざし、今後も努力していきたいと思っております。」



【特別賞】

特別賞は、在宅緩和ケアとちぎに贈られました。同チームは、2007 年に栃木県立がんセンターの粕田晴之医師の呼びかけによって発足した、医師、看護師、歯科医師、ケアマネージャー、薬剤師、医療ソーシャルワーカー(MSW)、臨床心理士、がん経験者、僧侶、ジャーナリスト等 178 名で構成される、特定の組織母体を持たない多職種の地域連携ネットワークです。2008 年の 4 月から、事務局を栃木県立がんセンター内に移しましたが、参加資格を設けないオープンな組織として、地域ネットワークの構築と緩和ケアの普及に努めている点ユニークな活動として高く評価されました。

—在宅緩和ケアとちぎのコメント—

「在宅緩和ケアとちぎは、多施設の医療従事者が集まって緩和ケアに取り組んでおり、そうした活動に対して、このような名誉ある賞をいただくことができ大変嬉しく思っています。私たちは、県下の緩和ケア地域連携ネットワークづくりを目的とし、多施設・多職種のメンバーで構成されています。これからも県内の緩和ケアのさらなる普及に向けて、がんばっていききたいと思います。」



JPAP®代表世話人である花岡 一雄 先生(JR東京総合病院 院長)は、「このたび、第 2 回を迎えた『JPAP® オレンジサークルアワード 2009』は、昨年よりさらに多くのご応募をいただきました。今回受賞された緩和ケアチームの皆様のみならず、残念ながら選にもれた他の緩和ケアチームの皆様にも、今後もさらに充実した緩和ケア活動を実施していただき、患者さんのニーズに応えた治療の普及に努めていただくことを期待しています」とコメントしています。

現在、がんは日本人の死亡原因の1位であり^{※3}、国民病と言っても過言ではありません。したがって、がんの痛み治療は、多くの日本人が直面するきわめて重大な問題です。また、2007年4月には「がん対策推進基本法」が施行され、治療の初期段階からの緩和ケア実施が、重点的に取り組むべき課題として掲げられました。今後、日本のいたるところで緩和ケアが行き届き、患者さん一人ひとりのニーズにあわせた適切な治療の実践がますます求められています。

以上

※1 「JPAP®」について:

「JPAP®」は、正しい痛み治療の普及と理解の浸透を目指し、2003年11月に医療従事者が設立した非営利の任意団体です。2009年6月22日現在、2,558名の医療従事者が会員となっています。詳しくは、JPAP®のウェブサイト<http://www.jpap.jp>をご覧ください。

※2 「オレンジサークル」について:

「オレンジサークル」は、“がんの痛みを取り除くことで、患者さんが、がんそのものと取り組む気力や体力を得る”という考え方を実践する医療チームからの登録申し込みに基づき、JPAP®が認定するものです。既に緩和ケア活動を展開しているチームの施設内でのアピールをはじめ、緩和ケアチームの立ち上げや、患者さん・ご家族向けの緩和ケアに関する啓発活動などを支援しています。参加チームには、JPAP®のウェブサイトでの病院紹介とともにチームの院内活動をご紹介していただきます。またオレンジサークルスターターキット(院内ポスター、認定バッジ、認定ステッカー、オレンジサークル認定証)のほか、ご希望の施設には患者さん向け小冊子をお届けしています。

※3 厚生労働省 平成19年人口動態統計より

< 報道関係者のお問合せ先 >

JPAP®事務局 広報窓口

ムンディファーマ株式会社

安藤 かおる

Tel: 03-6718-2979 Fax: 03-6718-2351

E-mail: kaoru.ando@mundipharma.co.jp

フライシュマン・ヒラード・ジャパン株式会社

山県信一、秋元由梨

Tel: 03-3524-4614, 4681 Fax: 03-3524-4602

E-mail: shinichi.yamagata@fleishman.com

yuri.akimoto@fleishman.com